

春休みの園便り

新潟青陵幼稚園 20年 3月

赤ばらさんの一年が終わりましたね。春先には、泣きながら登園したお子さんも多かったのですが、みんな頑張りました。この頃はお友だちと楽しそうに過ごしている姿がたくさんみられて、本当によかったとほっとしています。

白ばらさんは一年が終わって、今度は頼りになる青ばらさんになりますね。きっとやさしい思いやりをもったお兄さん、お姉さんになってくれることでしょう。

赤ばらさんを修了したこと、白ばらさんを修了したことを、どうぞお祝いしてあげてください。特に、ご兄弟姉妹の方が、小学校入学を控えている場合は、そちらに気持ちが向いてしまいがちになりますので、少し寂しい思いをすることと思いますので、心に留めておいてくださいね。

さて、子どもたちの成長した姿を見ると、大人はつい、“もっと”とさらに伸びてくれることを求めがちになりますね。高木善之さんという方が(NPO法人ネットワーク『地球村』代表)、日本人は、欲しいものが手に入っても、もっともっととさらに欲しがって、モアアンドモア教になっていると言っていますが、私たち大人は、子どもたちに対しても、もっともっとと要求してしまうことがあるように思います。子どもに対しても、モアアンドモア教にならないようにしたいですね。学年がひとつ上になっても、子どもたちは劇的に成長するのではないことを覚えておいていただきたいものです。

「しつけにおいて最も重要な必須条件は、それが「好きな人」からほどこされるということにあります。しつけは誰からほどこされても成り立つというものではありません。自分を愛してくれ、自分の方も愛するその人からであるところに意味があります。そのことはあまりに当然すぎるからか、ほとんどの人は忘れてしまっているようです。」(岡本夏木著『幼児期』より)乳幼児期は、大好きな人＝お母さん、お祖母さん等々のご家族をはじめとして、自分を大切に育ててくれる人ですね。こうした大好きな人との関係がとても重要なのです。一方的に押し付けてしまうのではなくて、しつけの奥底に確かな愛があることを、私たち保育者も、自分自身、確かめながら、子どもたちに添っていかねければならないと思わされます。

保護者の皆様には、多くのご協力とご理解をいただきましてありがとうございました。励ましのお言葉を頂くことも多くあって、保育者に携わるものとして、しっかりと学び、よりよい保育を考え、努力しなければならぬと思わせていただきました。

皆様のご好意、そして温かいお心遣いに感謝申し上げます。また来年度も宜しく願い申し上げます。

春休みは、少し不安定になる時期のようです。どうぞいつものように、あるいはいつもよりたっぴりと、抱っこしたり、一緒にお料理したり、散歩したり、あたたかい春の太陽のようなお母さんを、子どもたちの心に刻みこんで上げてくださいます。 それでは、よい春休みをお過ごしください。